

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『無敵化する若者たち』 金間大介

著 301 頁 東洋経済新報社 1600 円(税別)

無敵化とは、「若いというだけで勝ち組と思えるような恵まれた環境が与えられ、自己評価が高く、かつその権利主張をしっかりとするような存在を指します。著者は、大学教授で常日頃若い人と接しており、その経験と数多くの調査から本書を執筆しました。本書で指摘している若者の特徴をご紹介します。

★若者たちの特徴

- ・ 安定志向が強く、仕事に対する熱意や欲求がない
 - ・ 上の世代がためらうような権利主張を平気でする
 - ・ 自己評価が高い
 - ・ アウトではないけど微妙に失礼
 - ・ いつでも親が味方に
 - ・ 他世代に比べ恵まれた労働環境
 - ・ ストレスやハラスメントのない無菌化された職場が用意されている
 - ・ 先輩世代から守られ、大切にされる
 - ・ 仕事がうまくいなくても上司や先輩の責任
 - ・ 飲み会でも気づかってもらえる
 - ・ 平均値より下にこぼれ落ちない術を知っている
 - ・ 平均値より上に目立たない術を知っている
 - ・ いい子を演じることで上世代と一定の距離を保つ
 - ・ 自分や近い人がよければそれでいい
 - ・ 将来展望がない日本でも十分幸せ
 - ・ 日本の衰退を気にしない
 - ・ 嫌われることを気にしない
- ### ★弱点
- ・ 「言い訳」がない状態
 - ・ 異性が集まった場
 - ・ 同世代のいない世界

・ やりたいことが見つかった友だちから放たれる光

★いい子ちゃんバロメーター: この 18 項目中〇が付くのが 4 個以下となる若者はそんなに多くない。せいぜい 1、2 割しかない。ぜひお試しあれ。

- ・ 皆の前でほめられることが苦手
- ・ 自己紹介はできればやりたくない
- ・ ランチで行くお店など、些細なことでも自分から提案したくない
- ・ 自分の趣味や推しを話をするときは少し緊張する
- ・ 優秀な後輩が怖い
- ・ 授業中や会議中に質問することはない
- ・ 先生や上司に話しかけるのが怖い
- ・ なるべくリーダーはやりたくない
- ・ 周りと同じくらいの残業ならしてもいい
- ・ 出世して責任を負わされるよりは平社員のままがいい
- ・ できれば同じ場所で長く働きたい
- ・ 仕事に情熱を持った上司(先生)より、穏やかでのんびりした上司(先生)がいい
- ・ Facebook のアカウントは以前も今も持っていない
- ・ SNS ではほとんど投稿しない
- ・ LINE グループではほとんど発言しない
- ・ デートの行先はなるべく相手に決めてほしい
- ・ 気疲れするくらいなら恋人はいらない
- ・ 周りの人がいいと言っていた映画やアニメはだいたい観ている

★大学生に通じないネタ・トップ5

1. テレビコマーシャル: 「テレビないんで」
2. ドラマ: 皆が見るドラマは存在しない
3. サッカー: 多種あるスポーツの一つ
4. 相撲ネタ
5. 野球ネタ: 典型的なおじさんネタ

澤根> 以上若者の特徴でした。同意します？

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

2026 年若者用語

ネットにこんな記事を見つけました。

「【若者用語解説】滅なんだけど。でもギンです。—— 2026 年」。この記事は最新のことばとそれを生み出した今の若者の気持ちを分析しています。まず、新しいことばが生まれる背景、次にそのことばをかんたんにご紹介します。

1. コンプラ意識と「直接的な言葉」の封印：今の若者たちは、極めて高いコンプライアンス意識（法律だけでなく社会的な規範に忠実に行動しようとする姿勢）の中で生きている。かつて日常的に使われていた「きもい」「死ね」「ウザい」といった強い言葉は、今や「暴力」や「排除」と見なされ、口にする事自体がリスク（＝マナー違反、不適切）となった。その結果、「むかつく」を「にやお」に、「終わった」を「滅」に変換し、感情の毒性を抜く必要が出てきた。

2. 「不機嫌」を周囲に撒き散らせない配慮：自分のネガティブな感情をそのまま外に出すことは「空気を壊す加害行為」になりかねない。「しんどい」と言えば、周りに心配というコストを強いてしまう。だから、自虐やネタという「加工」を施し、相手に「笑っていい」というパスを出すことで、自分のネガをエンタメとして流通させる。

3. 「メタ視線」による現実の中和：自分を一步引いて、「セカオワ」や「ちゃお」のように眺める。自分自身の身に起きている悲劇を、客観的なネタにしてしまうことで、傷つく自分を保護し、現実の痛みを中和している。

———自分をネタにするネガティブ語———

1. 滅(めつ)なんだけど：「マジでダメ」という自己評価を、やや大げさに言う言葉。本気で絶望しているというよりは、周りに「笑ってほしい」というニュアンスが含まれている。『滅』の流行の火付け役は M!LK の『好きすぎて、滅！』という曲。

2. まじオワ：「本当に終わりだ」を略したりアクション。昔の言葉で言う「万事休す」や「お手上げ」に近いが、そこに「w(笑い)」を混ぜる。ひどい状況をあえて他人事のように「まじオワw」と突き放して言うことで、ショックを和らげる。

3. まじセカオワ：現実の出来事なのに、やけにドラマチックすぎたり、ファンタジーのようだったりする状況を指す。人気バンド「SEKAI NO OWARI」の描く、美しくもどこか危うい世界に例えることで、自分の日常を「物語のワンシーン」のように捉えて楽しんでいる。

———ときめきも、ギャグにする———

4. ギンです：「キュンです」という言葉が一時流行したが、もっと強くした、心臓をギュッとつかまれるようなときめき。「キュンです」という言葉が少し古くなったため、濁音の「ギン」にして新しさと衝撃度を出している。単に「好き」と言うよりも、感情が激しく動いている自分を面白がっているニュアンスが強い言葉。

———“盛り”と“バレ”をめぐることば———

5. めくれる：「隠していたことがバレる」「化けの皮が剥がれる」という意味。嘘を暴くというよりは、「あ、バレちゃった(めくれちゃった)」という軽いノリで、そのスリルさえもコンテンツ(ネタ)として消費される。

6. ポパる：自分を実際より大きく見せようとする、「盛った」自己演出をすること。ポパイがほうれん草を食べたときのように、自分をふくらませるイメージ。SNS で見栄を張ってしまう微笑ましい必死さを、「あいつ今ポパってるね」と少し冷めた目線で笑う言葉。

—「ちゃお」「にやお」系柔らかくネガティブの世界

7. そのメイク「ちゃお」じゃね?：少女漫画誌『ちゃお』のキャラクターのように、目が不自然に大きすぎる盛りすぎたメイクを指す。「盛りすぎて、もはや漫画」というメタ(客観的)なツツコミ。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。